

サプライチェーン排出量とは？

- 事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指す。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと
- サプライチェーン排出量 = **Scope1排出量** + **Scope2排出量** + **Scope3排出量**
- GHGプロトコルのScope3基準では、Scope3を**15のカテゴリに分類**



○の数字はScope 3のカテゴリ

Scope1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3 : Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

Scope3の15のカテゴリ分類



Scope3カテゴリ		該当する活動（例）
1	購入した製品・サービス	原材料の調達、パッケージングの外部委託、消耗品の調達
2	資本財	生産設備の増設（複数年にわたり建設・製造されている場合には、建設・製造が終了した最終年に計上）
3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動	調達している燃料の上流工程（採掘、精製等） 調達している電力の上流工程（発電に使用する燃料の採掘、精製等）
4	輸送、配送（上流）	調達物流、横持物流、出荷物流（自社が荷主）
5	事業から出る廃棄物	廃棄物（有価のものは除く）の自社以外での輸送（※1）、処理
6	出張	従業員の出張
7	雇用者の通勤	従業員の通勤
8	リース資産（上流）	自社が賃借しているリース資産の稼働 （算定・報告・公表制度では、Scope1,2 に計上するため、該当なしのケースが大半）
9	輸送、配送（下流）	出荷輸送（自社が荷主の輸送以降）、倉庫での保管、小売店での販売
10	販売した製品の加工	事業者による中間製品の加工
11	販売した製品の使用	使用者による製品の使用
12	販売した製品の廃棄	使用者による製品の廃棄時の輸送（※2）、処理
13	リース資産（下流）	自社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産の稼働
14	フランチャイズ	自社が主宰するフランチャイズの加盟者のScope1,2 に該当する活動
15	投資	株式投資、債券投資、プロジェクトファイナンスなどの運用
その他（任意）		従業員や消費者の日常生活

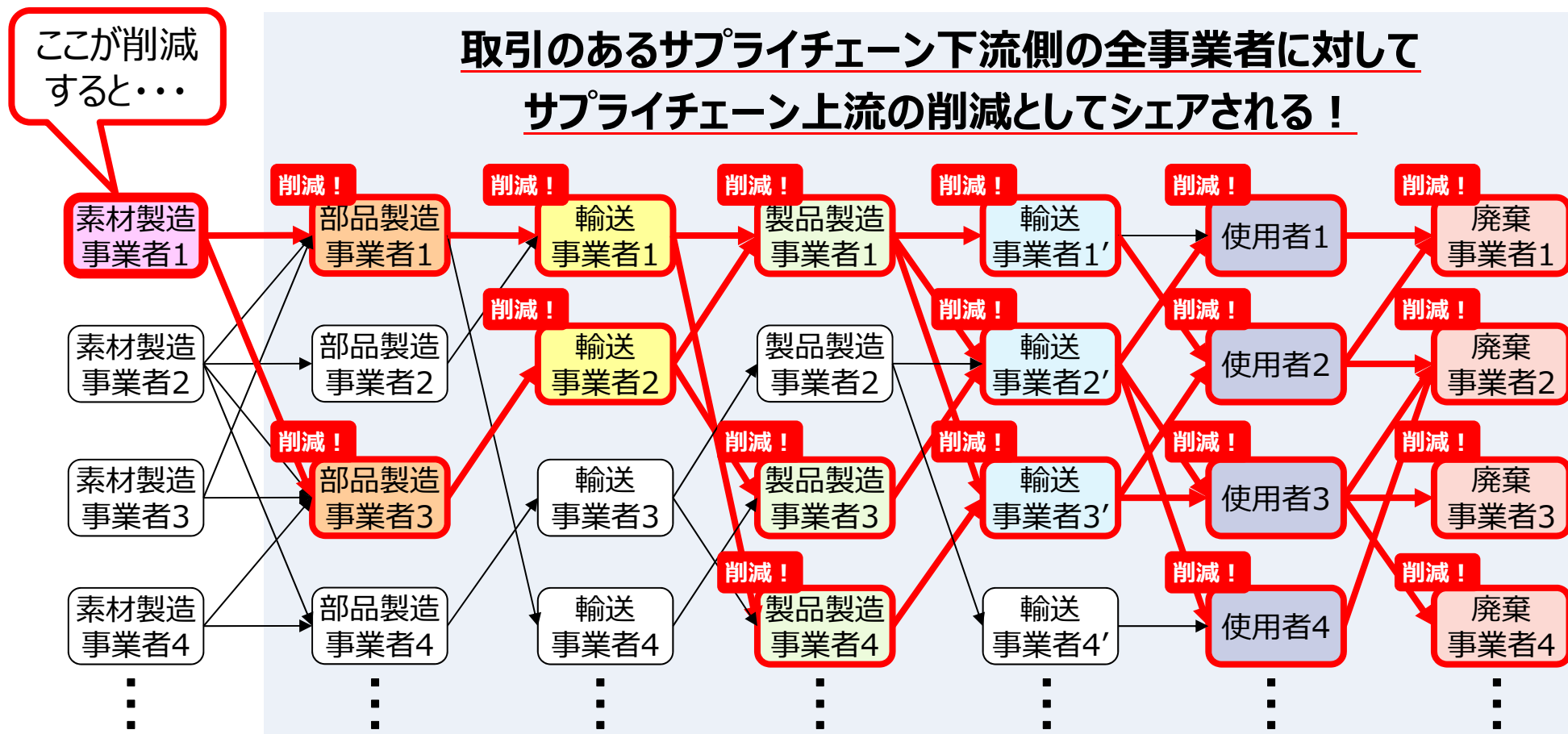
※1 Scope3基準及び基本ガイドラインでは、輸送を任意算定対象としています。

※2 Scope3基準及び基本ガイドラインでは、輸送を算定対象外としていますが、算定頂いても構いません。

サプライチェーン排出量の特徴：削減は各企業でシェアされる

- サプライチェーン上のうち1社が排出量削減すれば、他のサプライチェーン上の各事業者にとって、自社のサプライチェーン排出量が削減されたことになる。

素材製造事業者1が、排出量を削減したときのイメージ例



■ メリットと算定に取り組んでいる企業の声

● 削減対象の特定／削減意識の啓発

サプライチェーン排出量の全体像(総排出量、排出源ごとの排出割合)を把握することで、**優先的に削減すべき対象を特定**ができる。その特徴から**長期的な環境負荷削減戦略**や**事業戦略策定のヒント**を導きだすこともできる

● 他事業者との連携による削減

サプライチェーン上の他事業者と**環境活動における連携が強化**し、**環境負荷低減施策の選択肢が増え**、CO2削減が進む。また、CSR活動の一貫としてサプライチェーン排出量算定を要請する企業もあるため、**新規顧客開拓**へも繋がる

算定に取り組んでいる企業の声

取組むべき課題が明確になり、より具体的な削減数値として提示できるようになりました。また、社内外に環境活動に取り組む姿勢を示すことで、排出量削減に向けた活動意識を社内で共有しています。

サプライヤーである包装材メーカーに対しフィルム・トレイの軽量化を要請し他結果、軽量化が実現して両メーカーとともにCO2削減が進んでいます。

■ メリットと算定に取り組んでいる企業の声

● CSR情報開示

企業の情報開示の一環として、サプライチェーン排出量をCSR報告書、WEBサイトなどに掲載することで、**環境対応企業としての企業価値を明確**にする。サプライチェーン排出量の把握・管理は**一つの正式な評価基準として国内外で注目**を集めており、グローバルにおいても、投資家等の**ステークホルダーへの社会的信頼性向上**に繋がり、**ビジネスチャンスの拡大が期待**されている

算定に取り組んでいる企業の声

外部からの環境活動調査（CDP等）への対応や、統合報告書での外部公表に活用し、自社の環境活動のPRとして展開しています。

- 事業者自らの排出だけでなく、Scope3を含めたサプライチェーン排出量の算定・削減を求める外部環境が、世界的に形成されている

- 日経環境経営度調査やCDPなど企業の環境評価では、**Scope3設問が定着**
- CDPやGlobal Reporting Initiative(GRI)では、**Scope3の開示をする**ことを要求
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書では、企業が**Scope1・2・3の算定結果とその関連リスクについて、自主的な開示をする**ことを提案
- Science Based Targets(SBT)では、**Scope3について「野心的」な目標を設定する**ことを要求

サプライチェーン排出量の算定の流れ

- サプライチェーン排出量算定は大まかに分けると**4つのステップ**から成る



STEP4 各カテゴリの算定

- STEP4-1 : 算定の目的を考慮し、算定方針を決定
- STEP4-2 : データ収集項目を整理し、データを収集
- STEP4-3 : 収集したデータを基に、活動量と排出原単位から排出量を算定

STEP3 Scope3活動の各カテゴリへの分類

サプライチェーンにおける各活動を、漏れなくカテゴリ1～15に分類



STEP2 算定対象範囲の確認

サプライチェーン排出量の算定の際には、グループ単位を自社ととらえて算定する必要がある

STEP1 算定目標の設定

自社のサプライチェーン排出量の規模を把握し、サプライチェーンにおいて削減すべき対象を特定すること等の算定に係る目的を設定

サプライチェーン排出量算定に必要な資料



- Webサイト 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」に掲載
(http://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/)

基本ガイドライン	各カテゴリの概要や、基本的な計算式を示したもののカテゴリの中で複数の算定方法が考えられる場合、複数の算定方法を掲載
排出原単位について	排出原単位の考え方や整備方針、使い方、留意点等をまとめたもの。排出原単位データベースの使い方等の詳細を掲載
排出原単位データベース	サプライチェーン排出量算定に使用可能な排出原単位を掲載。「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース」には、利用可能な海外の排出原単位データベースの一覧も掲載
算定支援ツール	サプライチェーン排出量算定に活用することができるエクセルファイル。基本ガイドラインにおいて紹介されている全ての算定方法を掲載